

第1回福島市花と緑の基本計画策定検討委員会 会議録

1 日 時 令和7年7月3日(木) 13:30~15:30

2 場 所 福島市市民センター 313会議室

3 出席者 委員11名

小林 敬一 委員長、	市岡 綾子 副委員長	
アサノ コウタ 委員、	中野 義久 委員、	鈴木 深雪 委員
金子 真樹 委員、	山崎 樹里 委員、	齋藤 信也 委員
田崎 由子 委員、	細田 真矢 委員、	渡辺 駿 委員

4 欠席者 委員2名

羽田 ミチ子 委員、	二階堂 義樹 委員
------------	-----------

5 内 容

(1) 部長挨拶

(2) 委員紹介

(3) 講演

○タイトル 最近の都市緑地施策と都市公園施策の概要について

○講師 国土交通省都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室
企画専門官 峰寄 悠 様

(4) 委員長及び副委員長選出

(5) 議事

○計画の概要および緑の現状について

○今後の日程について

6 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

7 会議詳細

(1) 部長挨拶

本日は、当市で改定する福島市花と緑の基本計画の策定検討委員をお引き受けいただき、誠に感謝する。また、皆様には市政への各般にわたり、あらゆる面にお世話になっていることに、厚く御礼を申し上げる。

今回の緑の基本計画の改定は、令和6年11月に都市緑地法が一部改正され、同年12月に国から緑の基本方針が示され、都市を取り巻く環境の変化、気候変動への対応や、生物

多様性の確保、人々のライフスタイルの変化などに対応するべく、現行の福島市緑の基本計画を改定し、新たな福島市の緑化推進の将来像、目標、指針となる本市ならではの福島市花と緑の基本計画として改定する。

委員の皆様には、将来の本市の緑化や花の施策などの礎となるよう、ご意見、ご助言をお願いしたい。本日はよろしくお願いいたします。

(2) 委員紹介

委員による自己紹介

(3) 講演

講演を行った後、質疑応答、意見交換

委 員

従来の公園の概念とは全く異なり、色々なことが出来る公園、色々な形で出来る公園、色々な仕組みがある公園へと変貌してきた。結果として、これからのまちづくりを起こすための資源として、これまでのストックが活かされていくと思った。ますます都市を魅力的なものとしていくために、公園が活用されていくことを期待している。本日は良いお話を聞けて嬉しく思う。

講 師

まちづくりのためにどのように公園が位置づけられ、どのように使っていくのか。すなわち、まちづくりで公園のポテンシャルをどのように使っていくのかが重要になってきている。

委 員

まちなかの公園、緑のあり方について、いかに民間に入っていただくかを考えている。南池袋公園や、須賀川市の翠ヶ丘公園内に整備された温泉施設は、今回説明頂いた Park-PFI の仕組みにより実現した取組だと理解した。

講演資料では、緑の基本計画の例として、藤沢市の計画が挙げられていた。藤沢市の計画は、他の市町村に比べて優れた点があるのか。

講 師

サウナや温浴施設は一見すると公園と結びつかないように考えられるが、公園のポテンシャルをうまく使いながら、まちの活性化の核として整備することが考えられる。まちなかや郊外など、公園の立地条件に合った施設を入れていくことが良い。

藤沢市は、緑化施策に積極的に取り組んでいる。講演資料で示した藤沢市の計画の図面で

は、拠点に加え、川がネットワークの軸として描かれている。拠点やネットワークの結びつきを示す上で、藤沢市の計画が分かりやすい事例と考えた。ただし、全ての市町村に同様の計画策定を求めることは意図しておらず、一つの事例として捉えていただきたい。

(4) 委員長及び副委員長選出

事務局案の提示 委員長：小林敬一委員、副委員長：市岡綾子委員

(5) 議事

事務局で議事資料を説明後、質疑応答、意見交換

委 員

LINE アンケートの実施に当たり、広報は事前に行ったのか。

事務局

今回の LINE アンケートは、LINE 登録者に対して協力を依頼し、約 1,800 人から回答を得た。

委 員

LINE に登録していない方へアンケートを実施することは考えていないのか。

事務局

アンケート調査票を郵送する方法もあるが、LINE で行ったアンケート調査の回答率が高い。加えて、経費の節減を図れることから LINE での調査を選択した。

過去に市で実施した LINE アンケート調査で、最大 3,000 人以上の回答を得たこともあり、回答率が非常に高いと認識している。一方で、デメリットとして、設問数が限られることが挙げられる。基本情報を除くと、実質的な設問数が約 10 問に限られてしまう。

委 員

アンケートの結果は、次回の委員会でお示しいただけるのか。

事務局

次回の委員会では分析結果も含めて説明する。

委 員

仙台市の勾当台公園は、イベントに向いている公園だと感じる。都市公園としての役割を果たしており、うらやましく思う。福島市には、同じ規模の公園は見当たらないものの、新

浜公園が類似している。ただし、外から見ると閉鎖されている印象を受ける。もっと外に開くような整備を行い、イベント等で利用できるようにすれば、都市公園としてまちづくりに寄与する使い方が出来るのではないかと考えている。

委員長

公園を公園として捉えるだけでなく、公園をいかに活用していくのか、まちづくりといかに連携させていくのか、という意見だと理解した。

委員

計画名が、これまでの緑の基本計画から、花と緑の基本計画へと変わった。資料中で、「緑」の定義に草花が入っている中で、花と緑の基本計画と銘打つということは、「花」は何を意味するのか。

また、緑の基本計画ではなく、頭に「花と」を付けているからこそ、他の市町村の計画に比べて、花の部分をしっかりと取り上げて欲しい。花の特徴は、緑に比べて、福島の豊かな四季によって咲くものや咲いている時期が変わることだと考える。通常の基本的な計画に加えて、年間の季節に合わせた変化が見て取れるような計画になっていれば、「花と緑の基本計画」になると感じる。

事務局

本市では、郊外に果樹園の緑が広がっている。果樹園は、四季によって花を咲かせ、実を持つ。花の代表的な名所として、花見山が県外にも広く知れわたっているが、それ以外にも花回廊で色々な花の見どころを紹介しているので、それらを活かしたい。さらに、市制100周年以降、花のまちづくりをシンボル事業の一つとしており、さらに力強く計画にも位置づけたいという思いで、計画名に「花と」を追加した。

皆様から色々な意見を頂きながら、どのように「花」を交えた緑の基本計画を作り上げるかを考え、福島らしさに繋げていければと考えている。

事務局

まちなかで花を身近に感じられるまちづくりをしたい、という思いがある。

外縁部には、既に果物の花や花見の名所の花がある。長い期間を要することも考えられるが、皆様が住まわれているまちの中でも花を感じられるようにしたい、という思いを込めて「花と緑の基本計画」としている。

委員

量より質を高めていく必要がある、というお話があった。公園は、ただあれば良いというだけではなく、滞在していかに楽しく過ごしてもらうかが大切になると思う。福島市は、夏

には暑く湿度が高くなり、冬には非常に寒くなり、外出するのに最適とは言えない地域である。外に出ている方がたくさんいるときの市街地の雰囲気も含めて、公園は大切な位置づけになると思う。夏に合わせた公園づくり、冬に合わせた公園づくりを考えると、福島市では完全に屋外というよりは半屋内の空間を作ったり、自動で打ち水が出るようにするなど、過ごしやすい公園づくりがなされると良い。

まちなかでは、事業者の頑張りによりカフェや洋服店が多く営まれている。一方で、外に出ると休めるところが無い。例えば、コーヒーを持ちながら友達と会話を楽しむ空間がなかなかない。そのような意味でも、コーヒーを飲んだあとに次のお店へ、という流れが生まれるような、休憩所という意味での居心地の良い公園づくりをしていただければ、若者も多く集まり、活気のあるまちなかになると思う。

委員長

地球温暖化が進み、単に緑があるだけでは誰もが利用できる空間とはならなくなってきている。木陰をいかに作るかはこれまでも工夫されてきたが、さらに過ごしやすい、使いやすい公園にむけて検討していただきたい。

委員

私は、緑や花が好きなので、これらが増えることはうれしく思う。まちなかでは、駅前で花のまちづくりが進められているが、これに加えてそれぞれの家庭でも同じように花や緑があふれるようにすると、心が休まるだけでなく、地球温暖化が進む中で、二酸化炭素の重要な吸収源になる。緑地を増やすことに加え、全体的なバランスも考える必要があると考える。

委員長

公共側からのアプローチもあれば、一般市民からのアプローチも考えられる。公園整備の課題もあれば、緑化を進める上での課題も存在する。増加傾向にある空き地も活用しながら、緑を増やせていけたらと思う。

委員

花や緑は、農業に携わる者として重要な要素である。ただし、花は春先に開花が集中するため、夏場以降は花の側面が薄くなってしまわないか。

福島は小菊の一大産地だが、認知していない方が多いため、発信していければと思う。

市街地から郊外、山地まで様々な緑が存在するが、先ほどのデータにあった通り、7割近くが農地や山林関係である。しかし、これらは荒れ放題の印象を受ける。景観も考えながら、対策を進めることを考えていただきたい。

委員長

福島市では花卉栽培も行われているということで、花と緑のテーマに含めることを考えていきたい。また、都市と農村の関係でも重要な課題があるというご指摘をいただいた。

委員

福島市の市街地には、アルバイトや買い物で訪れることが多い。そのため、訪れる時間帯は授業が終わった夜間が中心で、福島市の花や緑といった自然を楽しめないことが多かった。空き時間や休日も含めて、友人や地域の方との交流を深めながら、施設内だけでなく屋外の景色を楽しむため、福島市の市街地に足を運ぶ機会を増やせればと思う。

委員長

まずは自然と触れる機会を作ることが重要と理解した。

委員

福島市は、夏が暑くて冬が寒いことから、半屋内という考え方に共感した。現状では、ひと休みするときにはカフェに入るしかない。本来は、自然を見ながら飲み物を飲んだり食べ物を食べたりしたいが、屋外は休むためには環境が悪い。半屋内の空間では、外の緑や花を見ながら、うまく環境と関わりを持てると感じた。

副委員長

計画名に「花と」を付けたのが大きなポイントだと考える。他都市で緑の基本計画の策定に携わった際には、花が前面に出てくることはなかった。花は、緑に比べると、日々手入れをしないと美しくならない。そして、手入れをするためには手入れをする人が欠かせない。今回、計画名に「花と」を入れることにより、福島市民に対して、日々花のことを愛でながら、また、自然のことを考えながら生活してほしい、という思いが込められたものと理解している。

花は、果物の花でもあり、花見山の花でもあるように、産業の面や観光の面といったあらゆる面で福島らしさを象徴している。

他の市町村で作られている計画の計画名に「花と」が含まれておらず、参考となる事例が少ない中で、あえて「花と」を入れることに、福島市の覚悟を感じた。「民」という用語には、指定管理者等も含まれるが、それ以上に市民一人一人が、という意味をうまく盛り込めると良い。

委員長

都市が発展している時代には、皆さんに公園、公園と言っていたいたが、最近は街路樹が次々と切られる時代となりつつあり、落ち葉が邪魔だという苦情まで寄せられている。こ

のような時代に、緑の重要性や役割を今一度考える必要がある。

単に公園というスペースがあるだけでなく、いかに活用するか。また、街路樹であれば、それがどのような役割を果たしているのか、という「意味」が重要になる。その「意味」は、触れあう人により変わってくるため、まちづくりのプロセスの中で「意味」が生まれていくようにすることが重要である。

今後、様々な資料の分析を踏まえながら、計画の骨格を作っていただきたい。

事務局

第2回策定検討委員会は、9月に対面で実施する予定である。詳細は後日改めてお知らせする。